

おうちで本を その1 開いていますか？



赤ちゃんといっしょに、絵本を楽しみましょう

言葉が話せない赤ちゃんには、絵本を読んでもわからないのでは？ いえいえ、赤ちゃんだって絵本を楽しみます。お母さんやお父さんのおひざで、絵本をじっと見つめ、うれしそうに手足をバタバタさせたり、「あ〜あ〜」と声をだしたり、赤ちゃんは体中で絵本を楽しみます。

春の号では、これまで保護者の方からいただいたご質問もご紹介しながら、赤ちゃんとお楽しむ絵本の世界を特集します。

Q 赤ちゃんは、何ヵ月くらいから絵本を楽しめるのでしょうか？

A 特に、何ヵ月からということはありませんが、赤ちゃんは、だいたい6ヵ月頃になると、絵本に興味を示し、大好きな場面では手足をバタバタさせて喜ぶかわいい姿が見られます。

また、**自分―物―人**という3つの関係がわかりだす9ヵ月頃になると、絵本の世界を、読んでくれている人と一緒に共感して楽しむようになります。

そして、1歳前後の片言を話しはじめる頃には、絵本の絵にさかんに指差しをするようになります。こうして、大好きなお母さん、お父さんと、絵本を楽しむことで、言葉もところも豊かに育まれます。

Q 絵本を読んでいると、自分で絵本をとって、なめたり、めくったり、かじったりします。

A それは、赤ちゃんがその絵本にとっても興味を持っている証拠です。赤ちゃんは、関心があるものは、手にとって、触って、なめて、五感をいっぱいにつかって、知ろうとします。



どうぞ、自由にさわらせてあげてください。赤ちゃん絵本の多くは、こうした赤ちゃんの絵本の楽しみ方を想定して、丈夫なハードカバーでなめても安全な素材で作られています。

※橋本市家庭教育支援チームでは、「家庭読書班」を編成しており、「家読」に関する講座を展開しています。
お問い合わせは、教育委員会 家庭教育支援室まで (TEL 33-1111 内1381)

赤ちゃんにとって、人の声の心地よい体験は、愛情の体験そのものです。子守唄やわらべうたとともに、大好きなお母さん、お父さんの声で読んでもらって、一緒に楽しむ絵本の時間は、赤ちゃんのころを豊かに育みます。



何ヶ月からでないといけないとか、こうでないといけないとかいうことはありません。お母さん、お父さんが、「これ、いいな」「好きだな」と思う絵本を、気軽に赤ちゃんとお楽しみしてみてください。

そして、赤ちゃんの好きな絵本を、部屋の隅など、赤ちゃんが手にとれるところに置いておくと、ハイハイができるようになる頃には、「読んで」と言うように絵本を手にとって大人の顔を見つめます。絵本があることで、まだ言葉が話せない赤ちゃんも、自分の気持ちを伝えることができるのです。

赤ちゃんが、絵本に喜びキャッキッと声をあげる姿は本当に可愛らしいもの。忙しい子育ての毎日、5分だけ、ちょっとその手を休めて赤ちゃんとお絵本を楽しんでみませんか。それは大人にとっても、ほっとするひとときです。絵本を通して、赤ちゃんとの絆もより深まります。

おすすめの赤ちゃん絵本



題名/じゃあじゃあびりびり
作/まついのりこ
出版/偕成社

はっきりした絵とリズムカルな音の響きが、はじめての絵本にぴったり。



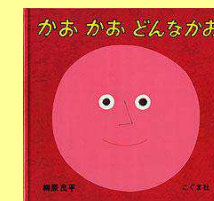
題名/がたんごとんがたんごとん
作/安西水丸
出版/福音館書店

電車に次々と可愛いお客さんがのりこみますよ。



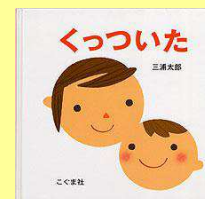
題名/いないないばあ
文/松谷みよこ
絵/瀬川康男
出版/童心社

赤ちゃんは「ばあ！」のところで大喜び。



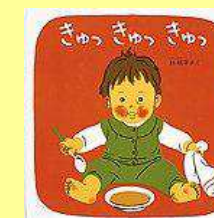
題名/かあかあどんなかあ
作/柳原良平
出版/こぐま社

赤ちゃんはみんな顔が大好き。絵本をじーっと見つめます。



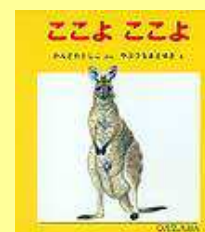
題名/くっついた
作/三浦太郎
出版/こぐま社

赤ちゃんのふわふわほっぺにぎゅっ！ママもパパもうれしい。



題名/きゅっきゅきゅきゅ
作/林明子
出版/福音館書店

みんなでごはん、楽しいね。思わずほほえみが出る一冊。



題名/ここよここよ
作/神沢利子
絵/数内正幸
出版/福音館書店

親子のあたたかな姿が素敵です。



題名/まるくておいしいよ
作/小西英子
出版/福音館書店

おやつ時間が、まちどおしくなります。